

花満開の春を迎えるために



株式会社ヤマカツ 代表取締役
山口英勝 さん

1級造園施工管理技士、
1級造園技能士の資格を有し、
日本造園建設業協会会員。
むつ市の桜満開プロジェクトにアドバイザーとして携わる。

むつ市の桜の名所として語られる水源池公園、早掛沼公園、来さまい大畑桜ロード、脇野沢愛宕山公園。
特に昨年、早掛沼公園や来さまい大畑桜ロードにおいては、例年の3割程度の開花に留まっています。

プロジェクトチームは、いくつかある原因のなかで、桜の木への栄養(施肥)不足と野鳥の糞(ウソ)の被害が早急に対応すべき課題とし、対策を講じることに決定しました。

桜への愛のかたち

「かつて日本では、江戸時代にソメイヨシノが流行し、これは良いものだと全国に拡がりました。しかし、たくさん植えるとだんだん手間もお金もかかるようになり、桜の木にあまり手をかけなくなっていました。でも桜は、きちんと肥料を与えて手をかけてあげなきゃ木なんです。」山口さんの語る表情に、草花に対する敬意とも感じられる気持ちを見ます。

チームは7月と10月の2回、桜の木への施肥作業「花咲か大作戦」を計画。枝葉の真下に木を取り囲むように1m間隔の穴を掘り、手のひらひとつ分の肥料を埋める作業に加え、筒状の打ち込み型肥料を地面に打つ施肥を実施しました。この打ち込み型肥料は、筒に

入っている肥料が長い期間をかけて徐々に土に溶け込んでいくため、特に効果が期待できます。「花咲か大作戦」は、ボランティアや地域の小学生のみならずと協力して取り組みました。チームの呼びかけに、総勢240名の方々に参加していただけたのです。

「木も生きもの。適切な言葉が判りませんが、若い木に戻すというような『復活』という言葉より、なるべく長く花を楽しむ『延命』という言葉が当てるのはまるのかもしれない。そのために、私たちが持っているノウハウを活かしていただきたい。そして、市民のみなさんを巻き込んでみんなでまちの桜に手をかければ、『私たちの桜』として愛着がわき、意識が向いて長く守られていくと思うんです。」



①



④

① 10月の花咲か大作戦 part2の様子。第一田名部小学校3学年のみなさんが手伝ってくれた。
②自分の手で桜に栄養を与えることが「私たちの桜」という意識に。
③ 緑色の筒が打ち込み型肥料。最も効果的な施肥。桜には、何よりも栄養が重要だ。
④ たくさんの方々に賛同いただきプロジェクトは進んだ。



③



②

花芽を多く残したい

ウソの被害。これについては、これまでも追い払いの対策を講じてはいました。しかし改めて実態を検証すると、ウソの活動時間は夜明けとともに始まり、これまでの対応時間よりも早い時間帯にすでにたくさんの花芽を食べてしまっていることが判ったのです。チームは、対応人員の増員と追い払い時間をウソの活動時間に合わせる調整を図りました。

とはいえ、追い払いの方法はロケット花火による非常に根気と労力のいる作業。「バーンと破裂音がすると一時はウソたちも飛び立つんだよ。でもまた遠くの木に留まって、何のことはない顔で花芽を食べ始める。」と話すのは、今

季も早掛沼公園で追い払い作業を行なった高田幸三郎さん。冬期間地道な対策が続きました。

また、チームは小鳥の天敵猛禽類の音声を発する野鳥追い払い機器を設置。動くものに反応するその声で、冬の期間、ウソの被害を少しでも防ぐ役割を担いました。

本当のあるべき姿

山口さんは言います。「今は鳥を追い払うための対策を講じていますが、本当は鳥を『悪者』にしてはいけないと思っています。ウソはご飯を食べているだけ。それを悪いこととしてはいけないんです。大事なのは、鳥が食べても有り余るだけの花芽を木がつけられる環境にしてあげること。木が



⑧

⑤ ウソに食べられる前の花芽と⑥ 食べられてしまった花芽。⑦センサーにより、動くものに反応して猛禽類の音が流れる野鳥追い払い機器。⑧花芽のつき具合を確認する高田さん。冬期間の対策は功を奏すか。

むつ市の桜満開プロジェクト ～これまでの取り組み～

平成 29 年 5 月

むつ市の桜満開を目指し、市と下北地域県民局地域整備部が「むつ市の桜満開プロジェクト」チームを結成。アドバイザーとして(一社)日本造園建設業協会青森県支部、NPO法人青森県樹木医会を迎え、現状調査、先進地聴き取り・視察を行い、今後の対応策を検討。

平成 29 年 7 月

「花咲か大作戦!! in 早掛沼公園・水源池公園」開催。ボランティア参加など総勢約150名の手で、桜の木に肥料を与えた。

平成 29 年 10 月

早掛沼公園にて第一田名部小学校の児童66名など総勢90名の協力のもと2回目の施肥。

平成 29 年 11 月

冬期に訪れる野鳥の糞(ウソ)による被害対策として野鳥追い払い機器を設置。機器はプロジェクトに賛同いただいた東北電力(株)むつ営業所、リサイクル燃料貯蔵(株)、電源開発(株)の3社より寄贈。

10月～平成30年3月

冬期間においては、野鳥追い払い機器、ロケット花火等を使用した追い払いへの人員増員などの対策を講じた。

健全で花芽がたくさんついていれば、今はやっかいと思われて追い払わなければならない鳥に対しては寛容に、『あ、鳥がきて鳴いてるね。ご飯を食べてる。私たちも花見をしよう。』となる。なんにも問題ないですよね。」

チームが目指すこと

桜には、「春が来た」とみんなを笑顔にする魅力と力があると思

います。

昨年、ほんの一步、桜を思う気持ちが動き出しました。まだまだやるべきことはたくさんあるかもしれない。まだまだ、花は少ないかもしれない。しかし、続けていけば必ず実ることを信じて。

桜がこのまちなみをもっと笑顔にしてくれる、そんな花満開の春を「むつ市の桜満開プロジェクト」チームは目指しています。